

1 日 時 令和7年1月26日(月)第5校時

2 学 級 2年B組(男子19名 女子17名 計36名) 教室 2年B組

3 単 元 名 近代世界の確立、開国と幕府政治の終わり

4 単元目標

(1) 欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。 [知識及び技能] (C (1) ア)

(2) 19世紀の世界的変化と、日本の開国による社会や政治の変化を結びつけて理解し、多様な主体の立場の変化をとらえながら、幕府滅亡に至る過程を理解している。 [知識及び技能] (C (1) ア)

(3) 世界史的背景と国内情勢の相互作用、そして多様な主体の利害や価値観の揺らぎに着目し、事象を相互に関連付けるなどして、幕末の社会変化や動きの様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 [思考力・判断力・表現力等] (C (1) イ)

(4) 「江戸幕府はなぜ滅んだのだろうか」という課題において、幕末の人々が直面した価値観の揺らぎや葛藤に寄り添いながら、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。(C (1) ア) ・19世紀の世界的変化と、日本の開国による社会や政治の変化を結びつけて理解し、多様な主体の立場の変化をとらえながら、幕府滅亡に至る過程を理解している。(C (1) ア) 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界史的背景と国内情勢の相互作用、そして多様な主体の利害や価値観の揺らぎに着目し、事象を相互に関連付けるなどして、幕末の社会変化や動きの様子を多面的・多角的に考察し、表現している。(C (1) イ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「江戸幕府はなぜ滅んだのだろうか」という課題において、幕末の人々が直面した価値観の揺らぎや葛藤に寄り添いながら、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。

6 単元観

本単元「江戸幕府はなぜ滅亡したのか」は、学習指導要領が示す「歴史的思考力」および「多面的・多角的に考える力」の育成を中心に据えつつ、これまでの江戸時代の学習で培ってきた視点を統合し、近世から近代への転換を理解することを目指して構成している。また、単元全体を貫く原則として、生徒が当時の人々の思いや状況に寄り添って考える「エンパシー」に基づく歴史学習を重視する。

これまでの江戸時代の学習では、まず江戸初期における幕府の統治機構の確立や支配秩序の安定化に着目し、「なぜ幕府は265年続いたのか」という問いを軸に歴史的な因果関係を探ってきた。続いて中期の改革では、新井白石や徳川吉宗、松平定信など改革者の政策を比較しながら、当時の社会状況や人々の生活実感に寄り添いつつ「よい政治の条件とは何か」を考える学習を行ってきた。これらは、生徒が単純な評価ではなく、当時の人々の思いや状況に寄り添った判断、歴史的視野を持つための基盤形成となっている。また、外国船の来航や鎖国体制の揺らぎを扱う中で、幕府、大名、百姓、町人など多様な主体の立場や利害を比較しながら理解する学びを積み重ねてきた。これは「多面的・多角的に考える力」を育成する授業構成であり、同時に「エンパシー」（他者の状況の理解と価値観の揺れに寄り添う能力）の育成にもつながっている。

本単元では、視野を世界へと広げ、近代世界の構造的変化を押さえたうえで、日本の開国と幕府滅亡を位置付けていく。イギリスの絶対王政と革命、アメリカ独立、フランス革命、イギリス産業革命などを扱うのは、日本の開国を「外圧による強制」という単線的理解に留めず、当時の世界が「市民革命」「産業化」「帝国主義」へと大きく変容する中で日本がどのような選択肢をもちえたのかを相対化して捉えるためである。ここでは、世界史的背景を理解することで、幕末日本の状況を構造的に把握する歴史的思考力を育成することをねらう。続く「日本は開国すべきだったのか」「開国がもたらした影響」「倒幕への動き」では、開国によって社会の価値観や経済構造が大きく変化したことを学び、武士、商人、百姓、大名、幕府中枢など多様な主体の「サティスファイド/ディサティスファイド（満足/不満足）」を資料から読み取りながら、歴史的因果関係と人間の思いの多層性を丁寧に追う。これは、「当事者視点での意思決定の再構成」を育む学習であり、単に倒幕の結果を知るのではなく、その過程にある葛藤や選択を理解する探究的活動となる。単元の最終段階では、幕府滅亡の原因を自ら構造化し、どのような選択が可能であったのかを考察する。ここでは、歴史的な事象を複合要因として再構成する力（歴史的説明力）と、エンパシー（多様な主体の価値観・背景をふまえた判断）を統合し、生徒自身が「自身の価値観で世界を読み解く力」を獲得することを目指す。

さらに本単元で扱う「意思決定」「満足・不満」「価値観の対立」「変化への適応」は、ウェルビーイング教育の観点とも接続できる。歴史学習を通じて、社会や他者の立場を理解しながら、自らの生活や将来の選択において「よりよく生きる」ための視点を獲得することは、現代の教育目標に照らしても重要である。特に、歴史的な意思決定における価値観の揺らぎを理解することは、生徒自身が将来の不確実な社会の中で納得解を見つけ出す態度につながる。江戸幕府滅亡という一つの歴史的転換期を素材にしつつ、生徒が過去の人々の思いをふまえて、自らの生き方を問い直すことができる、探究的で深い学びを実現する単元になることを期待する。

7 単元計画

時数	○学習活動・生徒の反応	★エンパシーを働かせる手立て、発問	評価の観点			◎評価
			知	思	態	
第1時	<p>○絶対王政はなぜ崩れたのか、議会派の訴えをもとに考える。</p> <p>【生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会（国民）が自分たちのさまざまな権利を求め始めたんだね。 	<p>★大抗議文の中では誰のことについて書かれている？</p>		●	●	◎絶対王政はなぜ崩れたのか、議会派の訴えをもとに考察することができたか。 [思考・判断・表現]

第2時	<p>【学習課題】アメリカ独立戦争では、誰のどんな思いがあったのだろうか。</p> <p>○アメリカ独立戦争をさまざまな立場から捉え、人々が何を求めたのか理解する。</p> <p>【生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自由や幸福を求めた結果の戦争だったんだ。 	<p>●</p> <p>★植民地側、黒人奴隷側、先住民側の考えは？</p>		<p>◎アメリカ独立戦争をさまざまな立場から捉え、人々が何を求めたのか理解することができたか。</p> <p>[知識・技能]</p>
第3時	<p>【学習課題】第三身分の人々は何に苦しみ、何を变えようとしていたのか</p> <p>○フランスの階級制度の仕組みや第三身分の陳情書から、フランス革命が起こった理由を理解する。</p> <p>【生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人々の中に「自由」「平等」「権利」といった概念が生まれてきたように感じる。苦しい生活を変えたいという一心だったのかな。 	<p>●</p> <p>★誰にとっての公平なのだろう。</p>		<p>◎フランスの階級制度の仕組みや第三身分の陳情書から、フランス革命が起こった理由を理解することができたか。</p> <p>[知識・技能]</p>
第4時	<p>【学習課題】なぜ欧米諸国はアジアへ進出したのだろうか</p> <p>○イギリス産業革命の光の面と闇の面を考えることを通して、欧米諸国がアジアへ進出した理由を考える。</p> <p>【生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業革命によって大きく成長したイギリスだけど、社会問題も発生していた。さらなる発展をめざして、資源や市場を求めてアジアへ進出していったんだと思う。 	<p>●</p> <p>★労働者はどんな思いだったのだろうか。</p>		<p>◎イギリス産業革命の光の面と闇の面を考えることを通して、欧米諸国がアジアへ進出していった理由を考察することができたか。</p> <p>[思考・判断・表現]</p>
第5時	<p>【学習課題】よりよい“三角関係”を考えよう</p> <p>○イギリス、インド、中国のそれぞれの立場に立ちながら、よりよい三角貿易のあり方について考える。</p> <p>【生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> イギリスが身勝手すぎる。当時の時代観では仕方がないかもしれないが、もっと中国と話し合いをすべきだったのではないかな。 	<p>●</p> <p>★三国ともに抱えている不満とは何だろう。</p>		<p>◎イギリス、インド、中国のそれぞれの立場に立ちながら、よりよい三角貿易のあり方について考えることができたか。</p> <p>[思考・判断・表現]</p>

<p>第6、7時 (本時)</p>	<p>【学習課題】 日本は開国すべきだろうか</p> <p>○欧米諸国の発展とアジアへの接近という背景を前提に、当時の時代状況や人々の思いに寄り添いながら日本は開国すべきかについて考える。</p> <p>【生徒の反応】</p> <p>【開国慎重派】</p> <ul style="list-style-type: none"> 植民地支配のリスクがある以上開国はできない。国力が備わっていない。 <p>【開国派】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本当は異国船打ち払い令を出したくらのタイミングで開国しておくべき。早く開国して技術を取り入れて発展しないと支配されてしまう。 	<p>★今まで誰がつらい思いをしてきた？</p> <p>★本単元での外国の発展、前単元での外国の接近についても思い出してみよう。</p>	<p>●</p>	<p>◎欧米諸国の発展とアジアへの接近という背景を前提に、当時の時代状況や人々の思いに寄り添いながら日本は開国すべきかについて考えることができたか。</p> <p>[思考・判断・表現]</p>
<p>第8時</p>	<p>【学習課題】 開国は日本にどのような影響をもたらしたのだろうか</p> <p>○開国によって、幕府や大名、百姓、商人の生活に及ぼされた影響について理解する。</p> <p>【生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国（清）のように不平等条約が結ばれて、日本としての立ち位置が低くなってしまった。経済的にも悪い影響があったんだな。でも商人や一部の藩にとっては、利益や技術がたくさん入ってきてうれしかったのではないか。 	<p>★誰が「満」で誰が「不満」だろうか。</p>	<p>●</p>	<p>◎開国によって、幕府や大名、百姓、商人の生活に及ぼされた影響について理解することができたか。</p> <p>[知識・技能]</p>
<p>第9時</p>	<p>【学習課題】 人々は何を求めたのだろうか</p> <p>○開国が日本社会にもたらした変化を具体的な事件から理解し、尊王攘夷運動の高まりと有力藩の台頭が幕府滅亡へつながったことを理解する。</p> <p>【生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前単元でも出てきていた有力藩が力をつけていった結果、滅亡までつながってしまった。江戸時代当初に幕府が警戒していたことが最後の最後で起こってしまった。 	<p>★倒幕派は、どのような日本にしたいという思いがあったのだろうか。</p>	<p>●</p>	<p>◎開国が日本社会にもたらした変化を具体的な事件から理解し、尊王攘夷運動の高まりと有力藩の台頭が幕府滅亡へつながったことを理解することができたか。</p> <p>[知識・技能]</p>

第10、11時	<p>【学習課題】江戸幕府はなぜ滅んだのだろうか</p> <p>○単元全体を通して、江戸幕府滅亡の原因を考え、幕府としてどのような選択が可能だったか、そこにどんな思いがあったからこそ実現は難しかったのかについて考える。</p> <p>★様々な立場に思いを寄せてみよう。</p>	● ●	<p>◎単元全体を通して、江戸幕府滅亡の原因を考え、幕府としてどのような選択が可能だったか、そこにどんな思いがあったからこそ実現は難しかったのかについて考えることができたか。</p> <p>[思考・判断・表現]</p>
	<p>【生徒の反応】</p> <p>・外国との交渉をもっと柔軟にできていればよかった。でも幕府としては武力で負けるとわかっていても国を守らないといけないプレッシャーもあっただろうし、外国の情勢がよくわからない各藩も判断が難しかったんだと思う。</p>		

7 本時について

(1) 本時の目標

欧米諸国の発展とアジアへの接近という背景を前提に、当時の時代状況や人々の思いを探る活動を通して、日本は開国すべきかについて多面的・多角的に考えることができる。 [思考・判断・表現]

(2) 本時の授業課程

形態 時間	学習活動 (○教師の発問・生徒の発言、意見)	◎評価・留意点
小集団 (20)	<p>【学習課題】日本は開国すべきだろうか</p> <p>○小集団で討論をしよう</p> <p>○全体で討論をしよう。</p>	<p>・自分の考えの根拠を明らかにしながら発言させる。</p> <p>・適宜、生徒の意見を深めさせるような問い返しを行う。</p>
全体 (25)	<p>【開国派】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国が産業革命を進め、軍事力を強めている以上、鎖国を続ければ武力で侵略される可能性が高く、戦争を避けるためにも開国は必要。 ・開国して情報や技術を取り入れなければ、日本だけが世界の流れから取り残され、結果的に幕府の支配も守れなくなる。 ・一部の藩はすでに西洋式の軍事や技術に注目しており、開国は国全体の力を高めるチャンスである。 ・蘭学などを通して西洋の科学技術の進歩を知っていた人々にとって、外国との交流を断ち続けることは国を弱くしてしまう。 ・度重なる飢饉や重い年貢で生活が苦しい中、外国との貿易によって物資が増え、生活が楽になる可能性があるのではないか。 	

- ・幕府の改革がうまくいかないなら、新しい仕組みや考え方を取り入れるしかないと感じていた民衆もいたと思う。

【開国慎重派】

- ・江戸幕府は鎖国によって約260年間平和な社会を維持してきたため、急に開国すればその安定した秩序が崩れる恐れがある。
- ・外国と対等な外交を行う準備が整っていない段階での開国は、逆に不利な条約を結ばされる可能性が高い。
- ・キリスト教の広がりなど、江戸初期に警戒してきた問題が再び起こってしまう。自由や平等のような考え方が国内に入ってくると、幕府討伐の考えが生まれてしまう。
- ・外国の文化や考え方が入ることで、武士の身分や役割が失われる不安がある。
- ・外国人との接触によって治安が悪化したり、戦争に巻き込まれたりしてしまうかもしれない。
- ・開国によってイギリスの安価な製品が国内に入ってきたり、日本のものが流出して物価が上がり、かえって民衆の生活が苦しくなってしまう。

○討論を通して自分の考えが変わった／変わらなかったか。理由を含めて書こう。

個人
(5)

- ・開国すべきだと思っていたが、外国と貿易が始まることで、物価が上がり、民衆の生活が苦しくなるかもしれないと感じ、開国すべきではないと変わった。
- ・開国すべきだということは変わらない。ただ欧米で革命が起こってきたその考えが流入する危険性はあるから、そうなったときの今後の幕府の対応次第で変わってきそう。
- ・開国すべきではないと思っていたが、日本の発展を考えると、開国でのデメリットよりも、開国したことによるメリット（西洋の技術が日本に入ってくる）の方が大きいように感じた。考えが変わった。
- ・開国すべきではないというのは変わらない。欧米との力差は圧倒的で、不利益な交易を強制させられるかもしれないという意見に自分も納得した。

◎欧米諸国の発展とアジアへの接近という背景を前提に、当時の時代状況や人々の思いを探る活動を通して、日本は開国すべきかについて多面的・多角的に考えることができたか。

[思考・判断・表現]

- ・討論の内容を踏まえて書くように促す。

【課題】 イギリスの議会は何を訴えたのだろう

イギリス王政の動き



私はイングランドと結婚している。

→ エリザベス1世 (在位1558~1603年)
イギリスの絶対王政が最もさかんな時期に、女王として君臨しました。

王はまさに神と呼ばれてもよいのだ。王は神以外の何ものにも責任を負わぬ。

→ ジェームズ1世 (在位1603~1625年)

王の権利は神からあたえられたものであると主張しました。

王権神授説



絶対王政

イギリス議会の動き

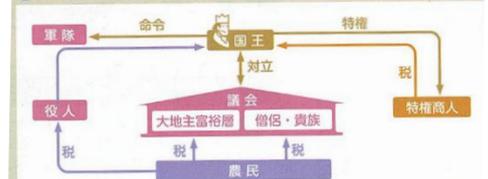


← エリザベス1世時代の議会 議会はもともと聖職者と諸侯からなっていましたが、13世紀後半から都市の代表も召集されるようになり、イギリス議회가成立しました。14世紀に入ると、上院・下院が制度化され、二院制となりました。

権利の請願 (1628年)

貴族と庶民は、陛下に請願致します。議会の制定した法による同意なしに、上納金や税金を強制されないことを。そして、正当な理由なく逮捕されないことを。

● イギリスの絶対王政のしくみ



1641年 大抗議文 (国王チャールズ一世の統治に対する、議会と国民の訴え) の提出

- ・国王と国民は本来、相互の信頼によって結ばれるべき存在であるが、近年の政治によってその信頼は大きく損なわれている。
- ・国王の統治のもとで、国民は自らの自由や財産、信仰が十分に守られていないと感じるようになった。
- ・国王の周囲には、国の利益よりも私利私欲を優先する重臣や助言者が集まり、国王の判断を誤らせてきた。
- ・特に主教をはじめとする高位の聖職者の中には、カトリック的な儀式や考え方を広め、正しいプロテスタント信仰を乱そうとする者がいる。
※主教制度＝国王を首長(教会の最高の統治者)とし、いくつかの主教(監督)を置いて、階層的に教会を監督・統制する。カトリックの司教制度に近いもの。
- ・聖書を重んじ、質素で純粋な信仰を求める人々(ピューリタン)は、説教を制限され、処罰され、信仰の自由を奪われてきた。
- ・こうした宗教政策は、多くの信仰高い国民の良心を傷つけ、社会の不安を高めている。
- ・国王は長いあいだ議会を開かず、議会の同意を得ないまま税を集めてきた。船舶税などの課税は、国の法律やこれまでの慣習に反し、国民の財産を不当に侵害するものである。
- ・税や国の財政が議会を通さずに決められることは、専制的な政治へとつながる危険を持っている。
- ・裁判や行政においても、公正さが失われ、国王の意向に逆らう者が不利に扱われる例が増えている。
- ・国政の重要な地位は、能力や忠誠よりも、国王に近い者や特定の宗教観を持つ者によって占められている。
- ・これらの問題の多くは、国王そのものではなく、国王に誤った助言を与える悪しき重臣たちによって引き起こされている。
- ・議会は、国王の正当な権威や王政そのものを否定するものではない。
- ・しかし、国の法律、議会の権利、そして正しい宗教を守るためには、現在の政治を正さなければならない。
- ・もしこれらの不正が改められなければ、国王と国民のあいだの不信はさらに深まり、国の平和と安定は保たれなくなるであろう。
(抗議文は204条に及んだ。上記は山竹による要約)

【課題】 イギリスの議会は何を訴えたのだろう

⇒この抗議文は、賛成159票、反対148票の11票差で可決された。しかし、大抗議文に反対する議員が半数近くに及んだことに自信を得たチャールズ1世は翌42年1月、兵を率いて議場に乗り込み、議会指導者を逮捕しようとしたが、かえって反発が起きたために失敗、議会派と国王派の武力衝突に発展し、ピューリタン革命の勃発となった。

ピューリタン革命 (1640~60年) *1642~49年とする場合もある。



← 処刑されるチャールズ1世
議会の要求を無視して議会を解散し、11年間も議会を開かなかったため、「国民の敵」と見なされ、革命で処刑されました。

共和制
(王政)

→ クロムウェル ピューリタンとは清教徒の意味で教会をピュアにすること(清浄化)を主張するプロテスタントの一派です。彼は、革命を指導して国王軍を破り、国王を処刑して共和制を打ち立てました。しかし、革命後、独裁政治を行ったため、彼の死後王政が復活しました。



※共和制＝国家元首を君主(国王や皇帝など)に置かず、国民が選挙などで選んだ代表者が統治する政治体制

名誉革命 (1688~89年)

↓ 名誉革命で国外に逃れるジェームズ2世



↑ 権利章典を読み聞かされるウィリアム3世と妻のメアリー

議会政治、確立へ

権利章典 (1689年)

第1条 国王は議会の承認なしに法律を無効にしたり、法律の執行を停止することはできない。
第5条 国王に請願することは国民の権利であり、そのような請願をしたことを理由に投獄したり、裁判したり、逮捕したりすることは違法である。

当時革命を支えた啓蒙思想家 ※啓蒙＝人々に知識を与えること

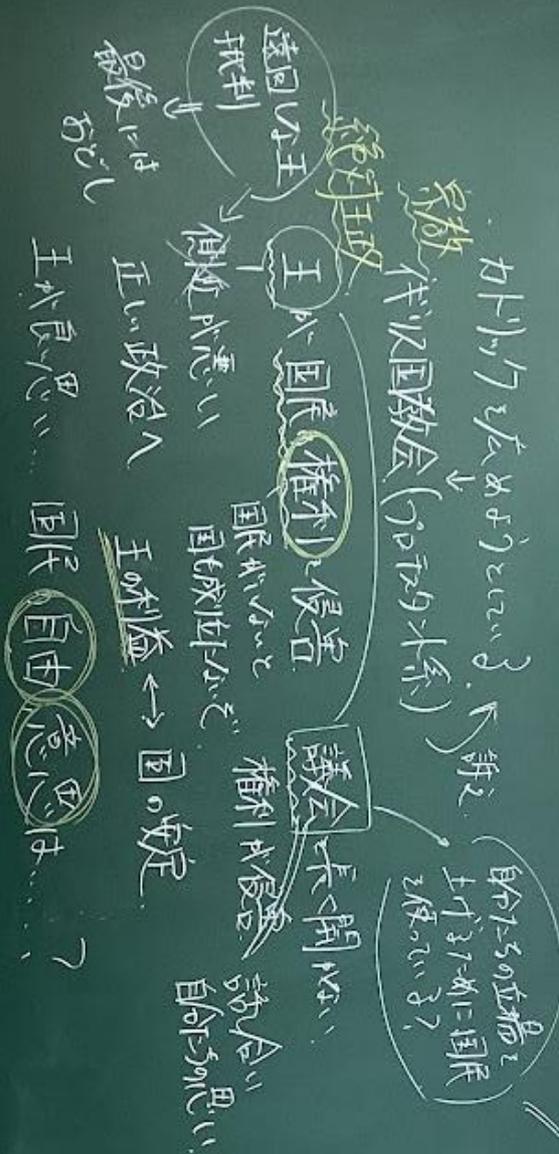


ロック(イギリス)(1632~1704)『統治二論』(1690) ※名誉革命を理論的に支持
①人は平等であり、生命・自由・財産を所有する権利をもつ
②人は①を侵す政府を変更することができる。(抵抗権)
③議会は、最高権力機関である。

第1時 板書

1/5(木)

伴以の議會は何を討てた(1837)



1837-117の革命

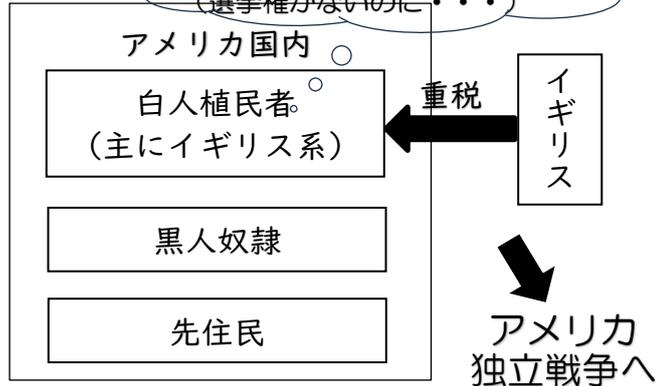
名譽革命

權利保障



2年()組()番 石町()

イギリス議会に代表者送ってないのに・・・
(選挙権がないのに・・・)



アメリカ合衆国独立宣言 (1776年) (一部要約)
われらは、次の事項を自明の真理であると信じる。すべての人は平等につくられ、造物主(神)によって一定の奪うことのできない権利を与えられ、その中には生命、自由および幸福の追求が含まれる。
またこれらの権利を保障するために、人々の間に政府が組織され、その権力の正当性は人々の同意に由来する。

合衆国憲法 1787年(1789年連邦政府発足)

●合衆国憲法(複製・部分) 世界初の成文憲法で、前文と7か条で構成されています。

われら人民は連邦を形成し、われらと子孫に自由がもたらす恵みを確保する目的で憲法を制定する。

- ①立法権は連邦議会に帰属する。連邦議会は上院と下院で構成される。
- ②行政権は大統領に帰属する。大統領の任期は4年とする。
- ③司法権は最高裁判所および下級裁判所に帰属する。

当時革命を支えた啓蒙思想家



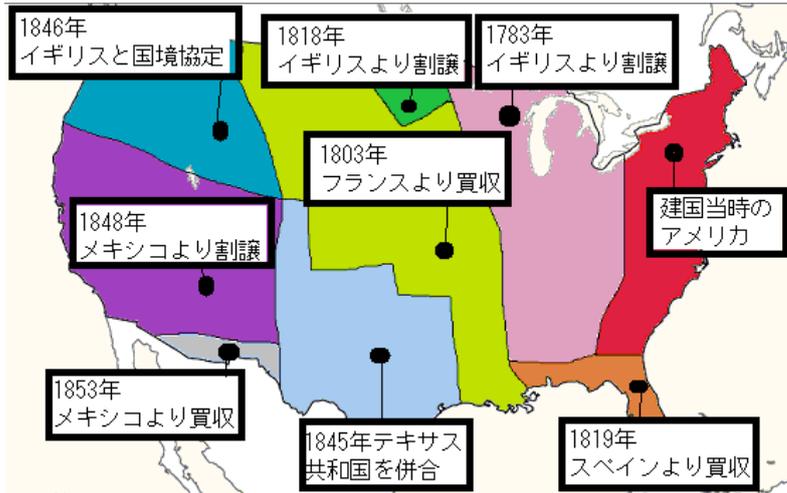
モンテスキュー (フランス) (1689~1755) 『法の精神』 (1748)
絶対君主の専制政治を改めるには、立法・行政・司法の3つの権限を集中させないで、相互に独立・けん制させることが必要である。(三権分立)

【課題】 アメリカ独立戦争には、誰のどんな思いがあったのだろう

先住民 ・ 白人植民者 ・ 黒人奴隷

Blank box for student response to the task.

1861年 南北戦争



北部	19州 約1870万人	商工業 中心	保護貿易賛成。 外国製品を輸入したくない	奴隷制反対 (解放し工場で働かせたい)
南部	15州 約1150万人 (奴隷約400万人)	農業 (綿花) 中心	自由貿易賛成。 綿花を輸出したい(英・仏へ)	奴隷制賛成 (農場で働かせ続けたい)

(「アメリカ発達史」など)

おもな戦争の死者数(アメリカ)



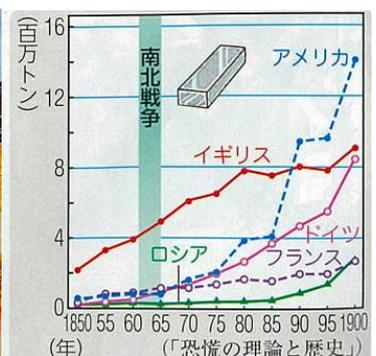
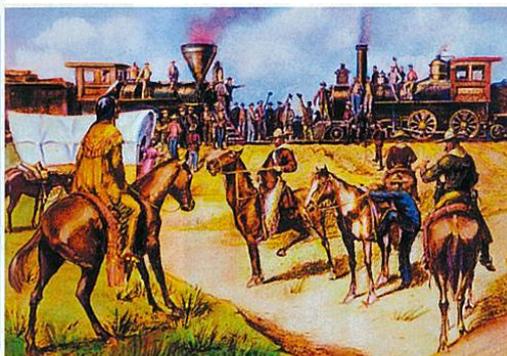
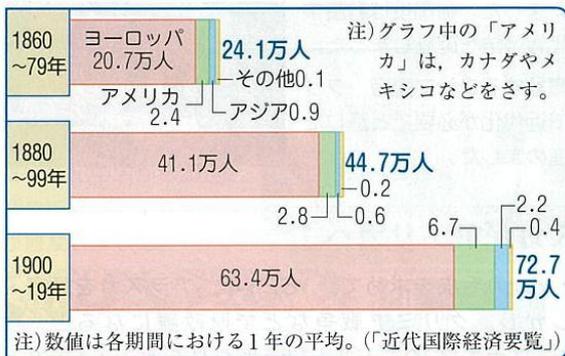
演説するリンカン(1863年11月) リンカンは激戦地ゲティスバーグで民主政治の本質を説く演説をしましたが、終戦直後に暗殺されました。

...government of the people, by the people, for the people...

奴隷解放宣言(1863年)

本日、1863年1月1日、すべての奴隷は、自由であることを命令し、宣言する。
解放された人々は、賃金を受けて、忠実に働くことを勧告する。さらに条件を満たしている者は、アメリカ軍に入るよう告知する。
(「リンカーン演説集」)

アメリカの発展



▲ **アメリカへの移民の出身地** ヨーロッパの人々はききんや革命を受け、アメリカに新しい生活を求めました。中国人は安価な労働力として受け入れられました。

▲ **大陸横断鉄道の開通(1869年)** 南北戦争中に工事が始まり、東西から進んできた鉄道がつながりました。移動の高速化と国の一体化が進みました。

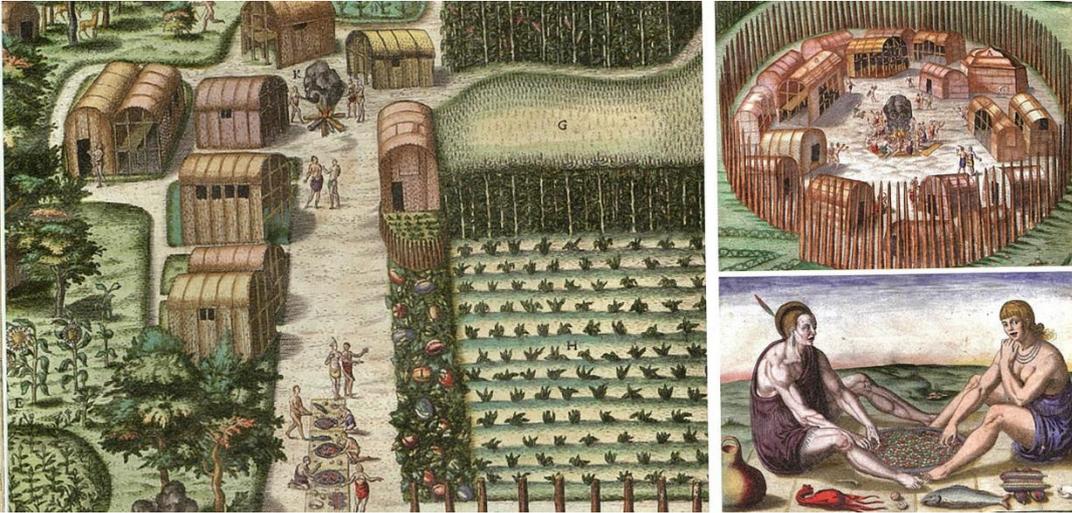
▲ **鉄の生産量** 豊富な国内資源を背景に産業革命が進み、1880年代に世界一の工業国になりました。

①先住民

北アメリカの先住民は、部族ごとに都市や村をつくり、地域の自然を生かした農業や、狩り・漁をして暮らしていた。ヨーロッパ人がやってくると、先住民はビーバーや鹿の毛皮を、銃や日用品と交換した。17世紀には、部族の間で毛皮の取引を巡って銃を使った激しい戦いが起こった。

東部の5つの部族は、イコロイ連合をつくっていた。各部族の代表がロングハウスに集まり、戦争や領土などの問題について論議した。多数決で決めるのではなく、全員が一致するまで話し合った。

独立戦争が起こると、イギリス側、植民地側に分かれて戦ったが、多くはイギリス側だった。



ヨーロッパ人が描いた北アメリカ先住民の生活 (16世紀にヨーロッパで出版された版画 (彩色))

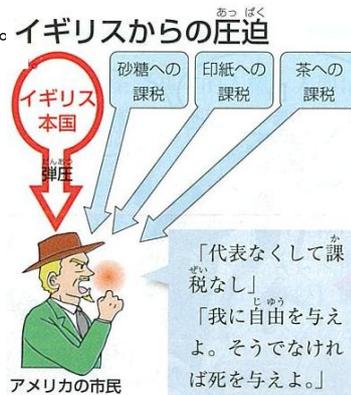
②白人植民者 (多くはイギリス系植民者)

17世紀になると、イギリスなどヨーロッパから渡ってきた人々は、東部各地に住みついて植民地をつくった。小麦やトウモロコシの畑をつくり、森を伐りひらいて、先住民の土地に侵入した。大農園でタバコをつくり大きな利益をあげる人もあらわれた。大農園にはイギリスから大勢の貧しい人が、アフリカから黒人奴隷が送り込まれ、厳しい労働をさせられた。イギリスからの^{あつぱく}圧迫

イギリス人の北アメリカ移住



▲メイフラワー号の移民 (19世紀の絵) 1620年、イギリスのピューリタンら102人が自由を求めて北アメリカに向かいました。暴風で針路がそれてコッド岬にたどり着き、その後、プリマスに上陸しました。



【解説】 アメリカに移住した人々に対し、イギリスはさまざまなものに多額の税金をかけました。そのためアメリカに住む移住者たちは苦しみました。

➡ 独立戦争へ

③黒人奴隷

大多数の黒人はタバコ畑で働かされていた。タバコ畑は富の大半を生み出し、その富が独立戦争の指導者たちを含む大農園主を支えていた。



ダンモア宣言 (1775年)

イギリス領ヴァージニア総督ダンモア卿が出した宣言

「独立派 (白人植民者派) の主人のもとで働く奴隷が、イギリス側に逃げてきたら自由を与える。」

黒人部隊「エチオピア連隊」

イギリス軍の支援を受けた黒人部隊

軍服には「Liberty to Slaves (奴隷に自由を)」の文字
黒人にとっては

「独立派」 = 奴隷制度を維持する側

「イギリス」 = 自由を与える可能性のある側

第2時 板書

1/5(木)

アメリカ独立戦争には、誰のどんな思いが込められていた?

朱任氏

多岐は

代償と根拠にこだわった。

朱任氏の土地自治確保

アメリカ側 対等な関係?

立場向上のため!

議会政治の発展に促した

白人おかしな? ←

おかしな? ←

武器
軍事力拡大

文明の急激な進歩

白人植民者

自由とアメリカ

重税と自由ではない

自分たちの力で政治を

代償と代表者ではない

自由の対立

権力の 思想の変化

アメリカに自由はない?

3つの権利

リベラリズム
自由

黒人奴隷 綿花

自由がほしい

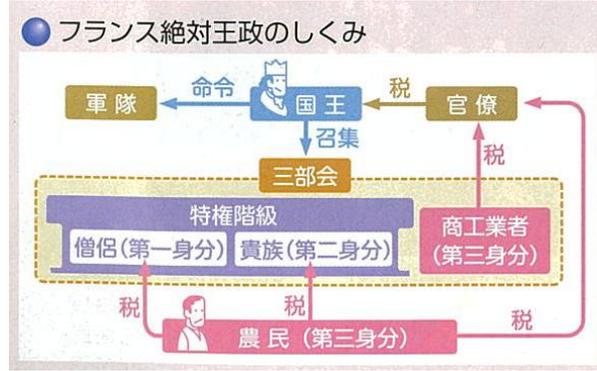
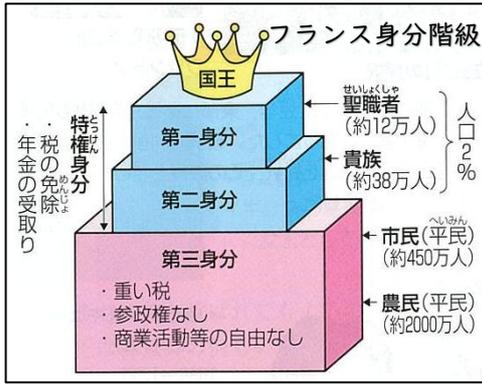
→ 代償と側に

実際はどっち側か...

★ 代償と側に奴隷

どっち側か? ←

2年()組()番 名前()



【フランス】17世紀 ルイ14世

- ・国王に権力を集中
- ・領土をめくり戦争を行う。
- ・輸出を増やす。

「朕（私）は国家なり。」

後のルイ16世は、国家財政の破綻に直面し、1789年5月5日に175年ぶりの三部会（議会）を開く。議決方法（身分別か議員個人別か）で第1・第2身分と第3身分が対立。第3身分が独自に「国民議会」を樹立。

フランス革命の始まり

テニスコートの誓い (ダヴィッド画) 第三身分の議員たちは、国王によって議場が閉鎖されると、ヴェルサイユ宮殿内の室内球戯場に集まり、憲法を制定するまで国民議会を解散しないことを誓い合いました。



バスティーユ牢獄襲撃 (1789年) 7月、国民議会への軍隊による圧力によりパリの市民たちの怒りは頂点に達しました。その結果、7月14日、パリの市民は専制の象徴とみなされていたバスティーユ牢獄を襲撃し、革命の波は、フランス全土に広がりました。

【課題】 第三身分の人々は何に苦しみ、何を換えようとしていたのか

○この陳情書の要求を、“どんな分野の不満か”で分けるとしたら、どう分けられる？

○もしあなたが第三身分だったら、この中で“絶対に譲れない”条文はどれか。

条

①=聖職者 ②=貴族 ③=平民

【フランス革命前】



【フランス革命後】



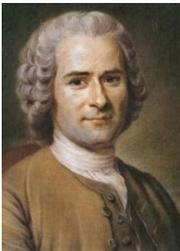
フランス人権宣言 (1789年)

- 第1条 **【基本的人権】** 人間は生まれながらにして自由で平等な権利をもっている。
 - 第3条 **【人民主権】** あらゆる主権の原理は、本来国民のうちにある。
 - 第4条 **【自由権】** 自由とは、他人に害を与えないかぎり何ごとともできるということである。
 - 第17条 **【所有権の不可侵】** 財産所有は不可侵にして神聖な権利であるゆえに…なんびともそれを奪われることがありえない。
- ④四大原理とは、自由・平等・人民主権・所有権の不可侵。
(「西洋史料集成」平凡社より)

人権宣言の寓意画



当時革命を支えた啓蒙思想家



ルソー (フランス) (1712~1778) 『社会契約論』 (1762)

- ①人は自由・平等・独立の権利をもつ
 - ②財産の私有は不平等をもたらす
 - ③主権者は人民であり、主権者は政府の権力を制限し、変更することができる。
- ※主権=国を統治する権力

ルイ 16 世の処刑とその後の動き



← **ルイ 16 世の処刑** 1793 年の公開裁判の結果は、387 対 334 票でした。それによりルイ 16 世の処刑が可決され、ギロチンで処刑されました。

→ **ギロチン** 発案者ギヨタン博士の名前からとられました。受刑者を苦しめず、平等で簡単な方法で首をはねる目的で考案され、1792 年から実際に使われました。



- フランス国内**
- 国民に徴兵を義務づける。
 - 革命裁判所をつくる。
 - 法律で物価の上昇をおさえる。
 - 反対派の処刑 (恐怖政治がはじまる)
 - 新しい憲法を制定する。
 - 新しい暦を採用する。
 - 農民の解放をすすめる。
- 政治混乱がおこり、社会不安が広がる。

- 周辺諸国**
- 革命が自国に及ぶことを恐れた、イギリス・オーストリア・プロイセン・スペイン・オランダなどは、同盟を結び、革命への介入を開始

絶対王政⇒共和制へ

ルーピュイ市の下級選挙集会時における第三身分陳情書（一部抜粋）

- 第1条 王国における身分、かつ、ルーピュイにおける特権身分の廃止を要求する
- 第2条 個人の自由は、すべてのフランス人に保障すべきである。法律上適正なかつ権限のある裁判官の手中にゆだねられ、諸規定によって罪の有無が判断されない限り、何人も自由を奪われることはありえない。
- 第3条 著者の責任は別としても、出版の自由は制限されることなく、認められるべきこと。それ以外の留保条件は全国三部会によって作られるべきこと。
- 第4条 全国三部会は少なくとも3年おきに、あるいは、次の会合において規定されることになる新たな方式によって、国家の重大事が必要とする場合には、頻りに召集されるべきこと。また、ここでは身分別ではなく個人個人によって審議され、意見は投票によって集約されるべきこと。
- 第6条 如何なる税も、国民の同意なしには作ることができず、かつ、全国三部会によって決定された、限られた期間しか有効でなく、如何なる期間の場合であれ、その会議から次のそれまでの期間を超えることはできない。
- 第16条 王国中においては、同一の法律による民事訴訟や刑事訴訟の抜本的改革に専念すること。その同一の法律が民事的事項に関しては様式を簡略化し、期間を短縮し、訴訟による出費を減らし、裁判所の合併や裁判所の一つの審級の廃止によって、迅速な裁判をもたらし、そして、衣族の崩壊を避けること。刑罰の点では、その同一の法律が実際に科される刑法において差別を廃止することによって、犯罪の種類に応じて総てのフランス人を同等に扱うこと。その犯罪の有無は何人かの陪審員及びそうした人々の前で行なわれる公的な手続きによってしか認められない。さらに法律は、すべての被告人に一樣に一名の弁護人を与え、重犯罪に関してしか被告人が自由を失われないように、如何なる被告人からも前もって自由を奪うことを禁ずる。かつ、その他いかなる場合であれ、提案され裁判所が実際にもらった保釈金によって、被告人には保釈が認められる。
- 第19条 最後に司法官の官職売買を禁止すること。貴族であれ平民であれ、結局、自らの才能、知識、徳の面で抜きん出ている、国民議会(=全国三部会)によって適切に判断されるであろう方法と尺度によって、裁きが無料で下されなければならないものだと確信している人々がその任務を全うするよう差し向けられること。
- 第24条 全国三部会は、聖職者身分に伝えられているあらゆる悪弊の改革に取り組むこと。また、(主任司祭に与えられた)年金の増額にも取り組むこと。その結果として、魂の導き手である司祭職を墮落させるだけでなく、人々にとって日々過重負担となっている司祭への謝礼金や寄付金などが廃止される。
- 第28条 税は総ての階級の市民に全体的に配分されるべきであるが故に、王国中の企業家にかかる二十分の一税は、慈惠的かつ不当な課税として、廃止する。
- 第30条 王国内においては、統一した度量衡を持つこと。※度量衡=長さ、体積、重さの単位
- 第33条 第三身分に、あらゆる軍事職および高位聖職になれる可能性を認め、第三身分を侮辱するだけでなく貴族にとっても少しも名誉とならない、これらすべての差別を締め出すこと。
- 第34条 少なくとも平和時の軍事義務は無用であり、農村民や都市民にとっては有害なので兵役の廃止を命ずること。

かくして、これらの条項は、集会に出席したものが、我々の市長、コンスル、国王代理人閣下、および書記とともに署名し、1789年3月28日のこの日、市庁舎にて最終的に決定された。

(近江吉明 著 .2009 — ルーピュイ市の下級選挙集会時における第三身分陳情書 より引用)

第3時 板書

1/6(金) 第三身分の人は何に苦しみ、何を望むか? (12/17 = a.k)

③ 言論の自由

→ 考の発展、民主化
→ 思想家
→ 革命 = 権利

① 特権の廃止
農民にも参政権を
裁判も公正に

② 土地の制限 ← 税

自由 ← 希望の光

③ 役人の税不正

負担軽減の望み

④ 戦後 少子化は悪い生活へ
政治をやれやすくなる

平等

④ いかにも人選を

→ いかにも政治
不正もなくなる

⑤ 誰よりも上へ成れり

⑥ but 今までのいりから反感
差別的

⑦ 議会の差がない
→ 第三身分も力を持つ

干渉競争



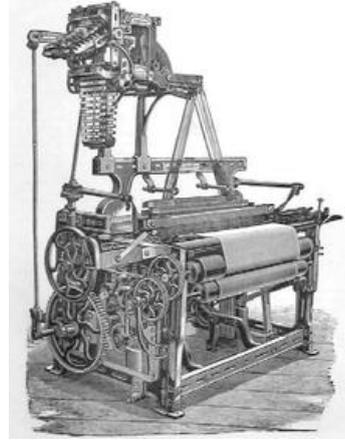
○綿工業の発達

ジョン=ケイ飛びひ装置

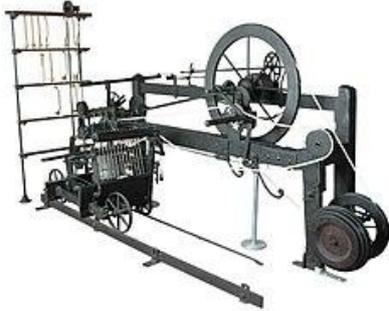


【布を織る織機】

カートライト蒸気力織機

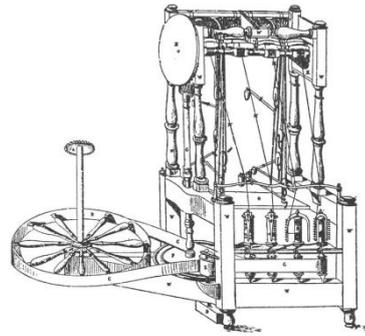


ハーグリーブス多軸紡績機



【綿糸を作る紡績機械】

アークライト水力紡績機

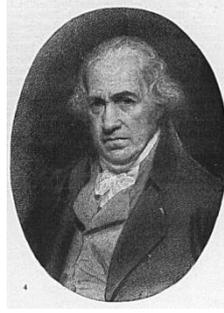


【課題】

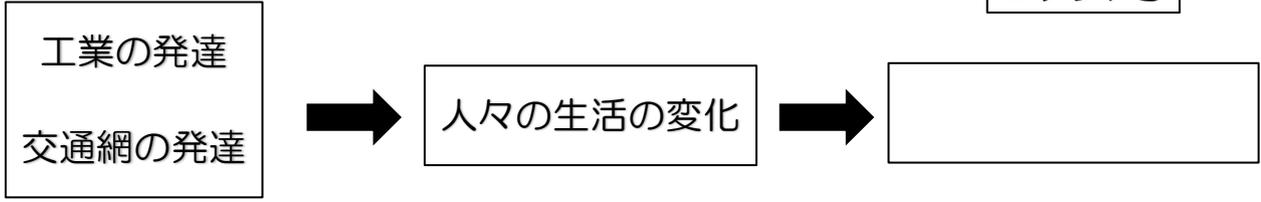
なぜ資料のような状況になってしまったのか、この状況をどう感じるか

Blank area for student response.

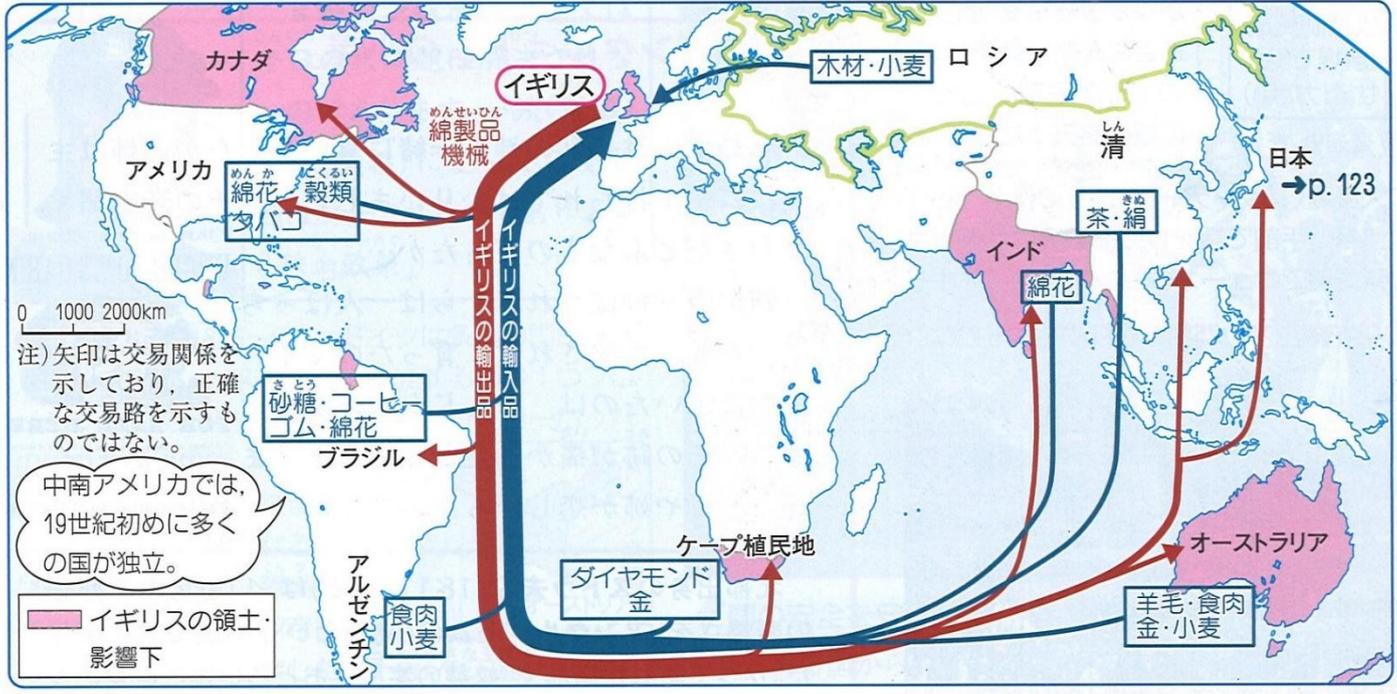
○蒸気機関の改良

 <p>ワット 18世紀の半ば、蒸気機関を改良し、実用的な動力機関を完成させた。 電力の単位W（ワット）はワットの名前に由来している。</p>			<p>スティーブソン イギリスに鉄道を敷く事業に力を尽くし「鉄道の父」と呼ばれる。</p> 
---	---	--	--

ロケット号



○イギリスの貿易
産業革命後のイギリスの貿易



⇒ () を輸入し、() を輸出。イギリスは() と呼ばれる。

歴史の人物伝 しほんしゅぎ ものもう **資本主義に物申す！マルクス(1818~83)**

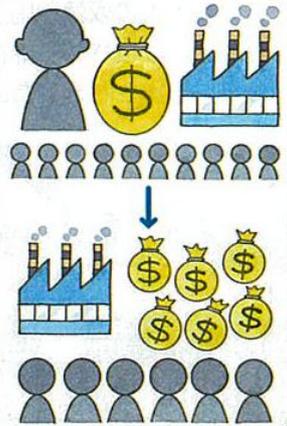


ばんこく ろうどう ばんこく
万国の労働者よ、団結せよ！

ドイツ人。資本主義を分析して批判し、1848年、友人エンゲルスと「共産党宣言」を発表しました。マルクスの社会主義の考え方は、20世紀に最も影響をあたえた思想の1つといわれています。

資本家が労働者をやとって生産し、利益を求める資本主義では、豊かな資本家と、負しい労働者に分かれる。

↓ 解決するために
政府の指導のもと、工場や土地などを社会の財産とし、労働者だけの平等な社会をめざす(社会主義)。



イギリス国内の状況

蒸気と綿ぼこりの中で

7歳の男の子ブリンコウは、朝5時前にベルで起こされます。麦がゆの朝食をかきこみ、寄宿舎を出て、5時半には工場に入ります。綿花から糸を紡ぐ工場の中は、綿ぼこりがたちこめ、蒸し暑くて35℃になることもあります。腰をかがめて床をはいまわり、綿くずを掃除します。昼に30分の食事時間をはさんで、夜の8時まで働き続けます。疲れて床に座り込むと、監督のムチがとびました。

事故は目の前で起こりました。10歳のメアリのエプロンが、回転する機械の軸にはさまれ、体ごと巻き込まれたのです。片足を失った女の子に、工場主は見舞金さえ払えませんでした。1847年には、イギリスの綿工場の労働者の70%以上が、女性や18歳以下の子どもでした。

エンゲルス（革命家・思想家）が見た労働者の住宅

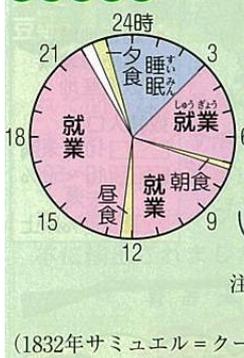
エンゲルスは22歳のとき、マンチェスターの町を歩きまわって調査し次のように記録している。

「マンチェスターの中心には、商業地区があり、ここはほとんど事務所と倉庫だけが集まっている。工場などを経営する資本家は、高い台地の上に広大な邸宅をかまえ、自然で健康な空気の中で暮らしている。工場は、3本の川と多くの運河の流れに沿って建てられている。川沿いの労働者地区には、小さな平屋の掘っ立て小屋が密集している。たいていの住宅は1部屋しかなく、床に板がはってある小屋はほとんどない。ドアは開けっ放しだが、家具などは一つも見えなかった。ドアの前の道路は、いたるところ瓦れきや汚物だらけだった。」

イギリスのある繊維工場

働いていたのは、6～18歳
くらいの子どもたち

1日の生活



賃金

1週3シリング
7.5ペンス
(最もいそがしいとき)

5分遅刻したら
賃金を4分の1
減らされました。



注) 1850年の都市の家賃は、
1週4シリング。

(1832年サミュエル＝クルスンの証言。「西洋史料集成」)



炭鉱で働く子どもたち（1850年）



炭鉱の女子労働者

100kg以上の炭車を鎖で
引いています。年少者の
過酷な労働は議会で報告
され、1833年、未成年者
の就労制限などを定めた
工場法が成立しました。



ロンドンの住宅街

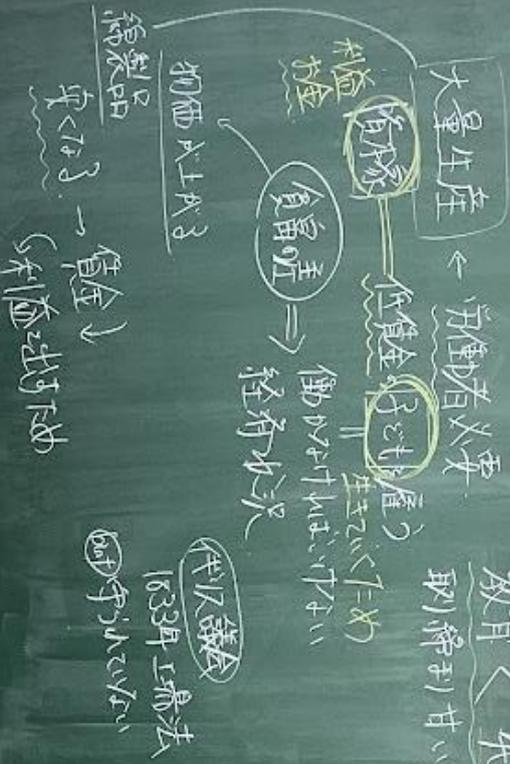
労働者が増えた
ため、ゴミがあふれ、悪臭がただよ
いました。廃棄物で汚れたテムズ川の水
で伝染病が流行することもありました。
労働者は労働条件や生活を改善するた
めに労働組合をつくり、労働運動を行
いました。

	富裕層	農民 商人	労働者
マンチェスター(都市)	38歳	20歳	17歳
リバプール(都市)	35歳	22歳	15歳
ラトランド州(農村)	52歳	41歳	38歳

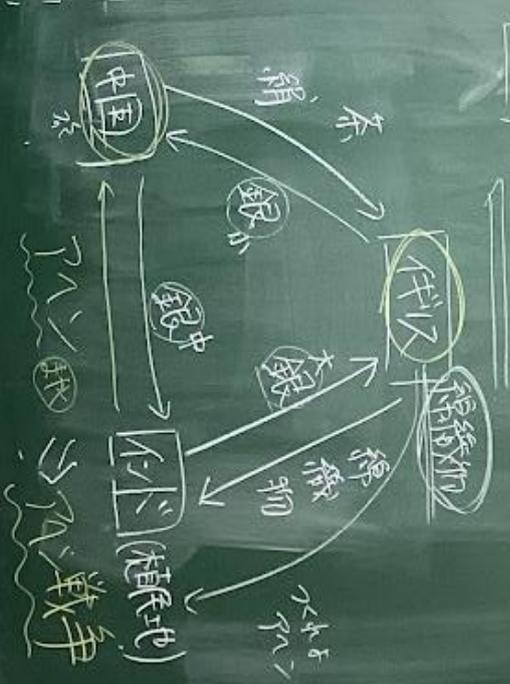
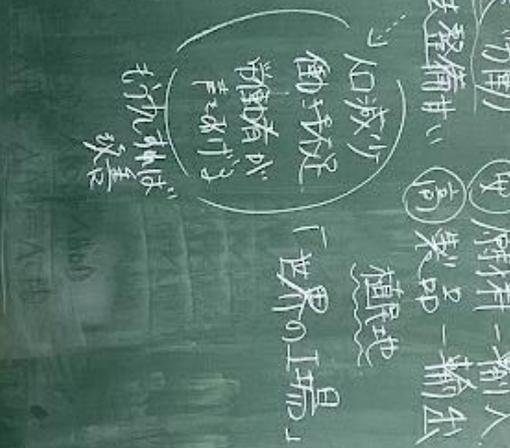
1840年頃のイギリスの平均寿命(「生活の世界歴史10」)

第4時 板書

1/20(日) 近代資料の存在状況は？

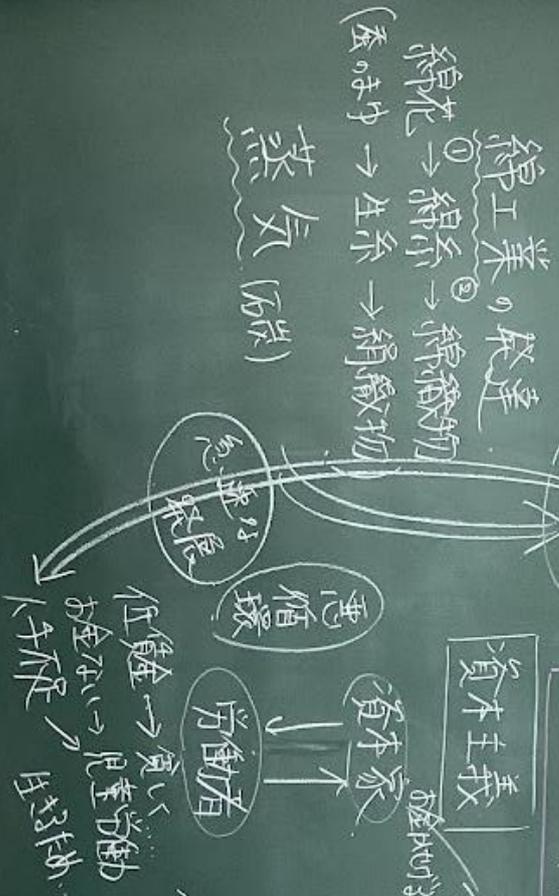


近代化 = 別強、別弱
 ① 銀の流出 → 持続性
 ② 原料-輸出入
 ③ 高製品-輸出
 ④ 植民地-世界の工場



1/20(火) 近代の産業革命

近代資料の存在状況に？ どの感じ？



資本主義

資本家

労働者



主語は誰？

近代

農業

原料の輸入
 製品の輸出
 世界の工場

権力
 世界
 植

○欧米列強の成立

●ロシア(南下政策)

皇帝の専制政治が続いたロシアは、19世紀の中頃、黒海から地中海への出口を得ようとしてオスマン帝国(トルコ)に宣戦し、それを牽制するイギリス・フランスとも戦争になったが、敗れた(クリミア戦争)。皇帝は、敗戦の原因が、西欧諸国に比べて遅れた社会や経済のしくみにあることを認めて、1861年、農奴解放令を出して農民の身分を自由にし、改革のための基礎をつくった。

●イタリアとドイツ

【イタリア】

サルジニア王国による国内統一

↓

1870年 イタリア王国

【ドイツ】



ビスマルク首相をもとに諸国をまとめる。オーストリアやフランスに勝利。

↓

1871年 ドイツ帝国の成立

言論や多数決によっては今日の大問題は解決されないのであります。

・鉄(軍備)と血(犠牲)によってこそ問題は解決されるのであります。(「鉄血政策」)

社会の改革
統一国家の成立

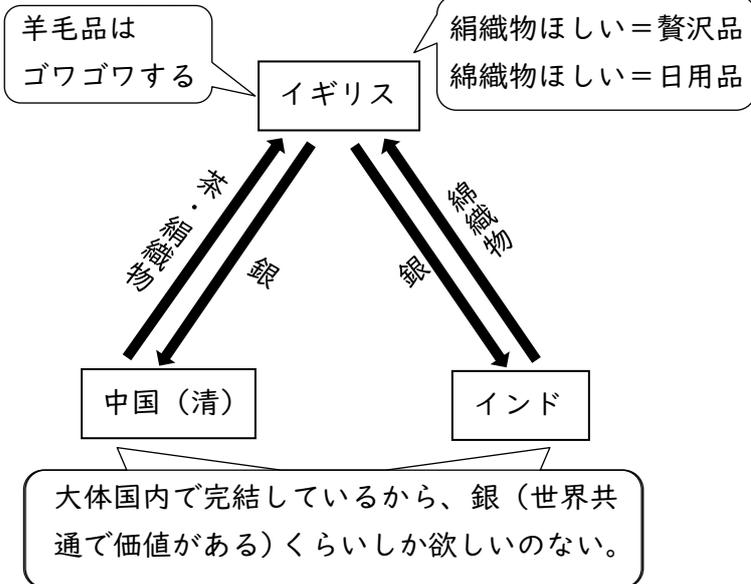
= ()

イギリス・フランス・アメリカ
ドイツ・イタリア・ロシアオーストリア

= ()

○イギリス・インド・中国(清)の貿易関係

18世紀中ごろ



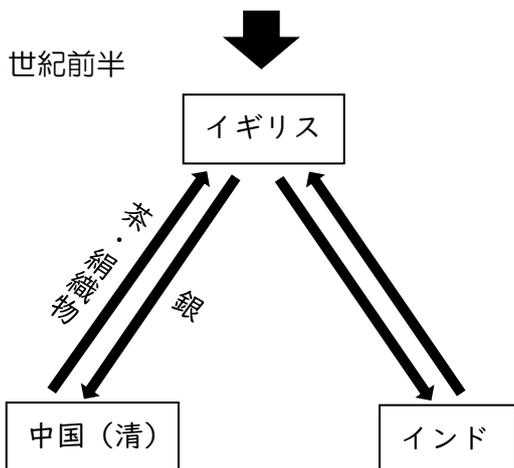
イギリスにとって何が問題?

Blank box for answer to the question above.

産業革命によってどこが変えられそう?

Blank box for answer to the question above.

19世紀前半



()へ



アヘン戦争の結果⇒イギリスの圧倒的勝利、南京条約の締結

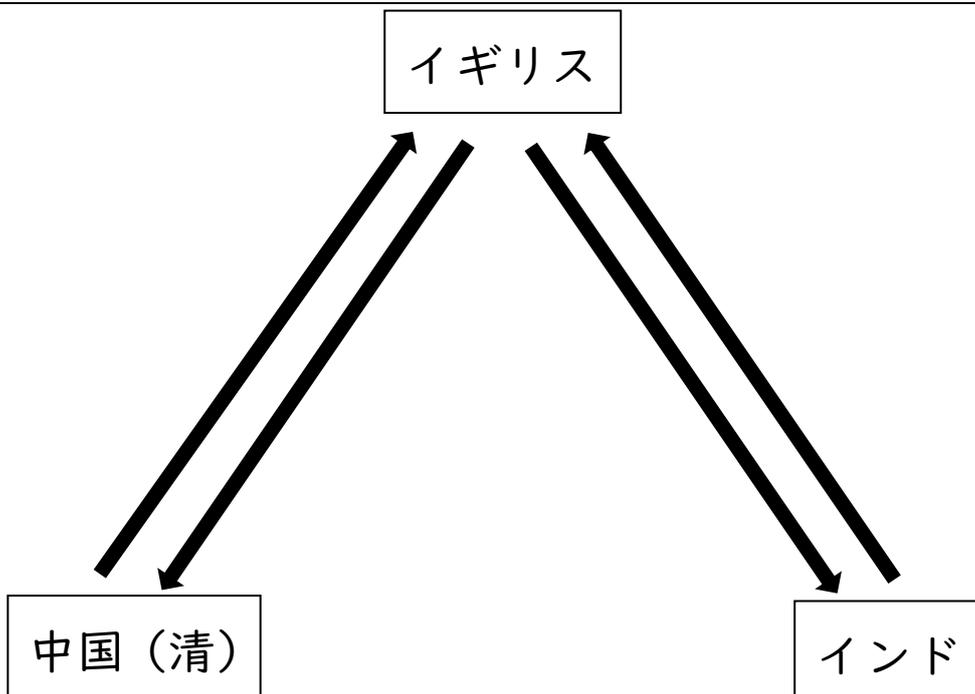
南京条約（1842年）

- ① 広州・福州・厦門・寧波・上海の5港を開港する。イギリス人の居住を許す。
- ② 香港をイギリスに譲る。（1997年、中国に返還）
- ③ 特許商人の独占貿易をやめ、自由貿易とする。
- ④ 賠償金2100万ドルをイギリスに支払う。（清の歳入の3分の1相当、今の日本で言うと、日本の歳入の3分の1は、40兆円ほど）
- ⑤ 領事裁判権（治外法権）を認める。（外国人が自国で事件を起こしても、自国の法律ではなく、その国の法律で裁くことを認める）
- ⑥ 清は関税自主権を放棄する。（外国から入ってくる品物に、税金（関税）を自国が自由に決められない）
- ⑦ 清はイギリスに最恵国待遇をする。（ある国に与えた有利な条件は、イギリスにも同じように与えなければならない）

【課題】 よりよい“三角関係”を考えよう

○自国としてここは主張したい！

○相手国のここは配慮してあげたい！



イギリス

【国内状況】

産業革命進行中、人口増加・都市化、茶の大量消費（生活必需品化）、貿易赤字が深刻（銀の流出）

賛成派

イギリス政府（メルバーン内閣）
外務大臣パーマストン

「アヘン没収は商人の財産権侵害である。中国の貿易制限・外交姿勢は不当である。国益と名誉を守るために軍力が必要である。」

議会賛成派

「（当時、現地で対中問題を担当していた）チャールズ・エリオット氏が、包囲された商館に立てたイギリス国旗が如何に人々を勇気づけたか、そしてイギリスには敗北という屈辱はなく、退歩することを知らない」

反対派

アヘン取引自体が違法であり、戦争理由としてはふさわしくない。中国が自国の法を守ろうとしているのに、これを理由に戦争するのは倫理的に誤り。アヘンは有害であり、道徳的に貿易すべきでない。

グラッドストーン議員

「清はアヘン貿易をやめる権利があるのに、わが国の外務大臣は、この貿易を援助した。これほど不正な、わが国の恥さらしになる戦争は聞いたこともない。」

1840年4月7～9日の下院での議論

賛成（政府軍事派）271票 対 反対（戦争反対派）262票 ⇒ 9票差で戦争方針可決へ

中国（清）

【国内状況】

- ・世界最大級の人口、皇帝を中心とした官僚国家、農業中心の経済「中華思想」＝自分たちが世界の中心
- ・広州貿易制（公行制度）＝広州（港）だけで貿易を行う。

①外国貿易は国家管理②沿岸部の治安・反乱の警戒③外国人は指定地域に居住、滞在期間限定

- ・アヘン禁止令が17～18世紀から出され続けていたが、取り締りは困難。

○アヘン常用者（1830年代末）：500万人（人口の1%）以上

○アヘン輸入額（1838年度）：690万両（清の歳入の17%相当）



りんそくじゅ
林則徐

「あなたの国は清の商品を運び出し、自分たちが使うだけでなく、外国に売って3倍の利益を得ています。この利益は、アヘンを売らなくても保証されています。人に害を与えるものまで平然と売りさばいて、利益をむさぼる必要があるでしょうか。わが国では、アヘンを運び込む外国人は斬首・絞首刑にすることにしました。」

インド

【国内状況】

イギリスの東インド会社が介入⇒戦争・同盟・貸付を通じて、税の徴収・行政・軍事を実質支配
18世紀前半まで綿織物・染色は世界最高水準⇒世界有数の富裕地域

【アヘン生産の仕組み】

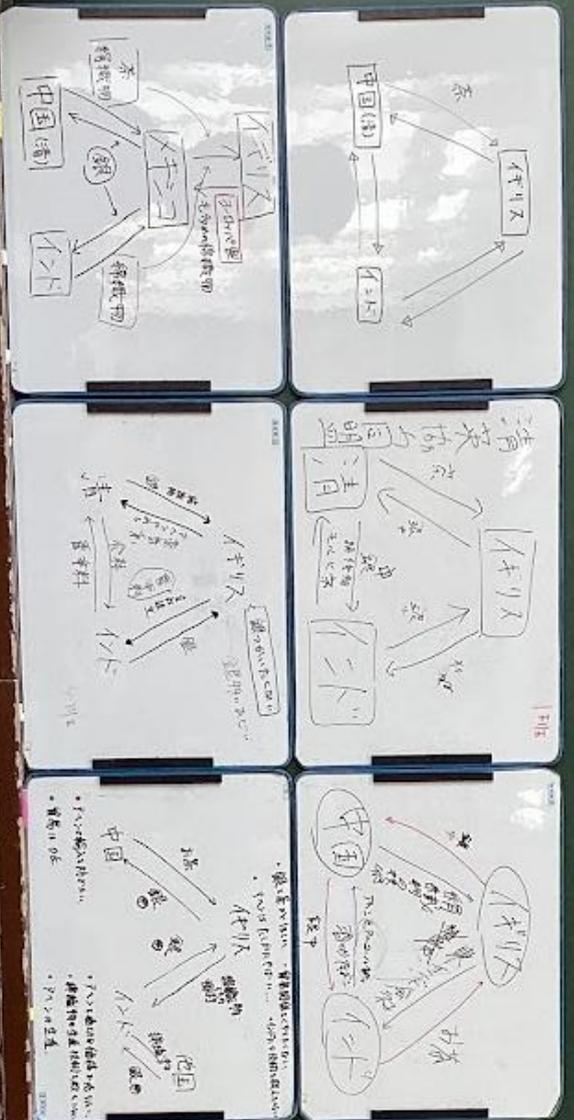
東インド会社がケシ栽培を指定、作物・量・価格を決定 農民に拒否権なし

種や生活費を「前貸し」、収穫後安価で買い上げ、借金が残る、翌年も栽培せざるを得ない
食料作物の減少、飢饉の頻発、不安定な収入

【様々な立場】農民（最下層）地主（会社と結びつき利益をあげる者も）商人（流通に関与）

第5時 板書

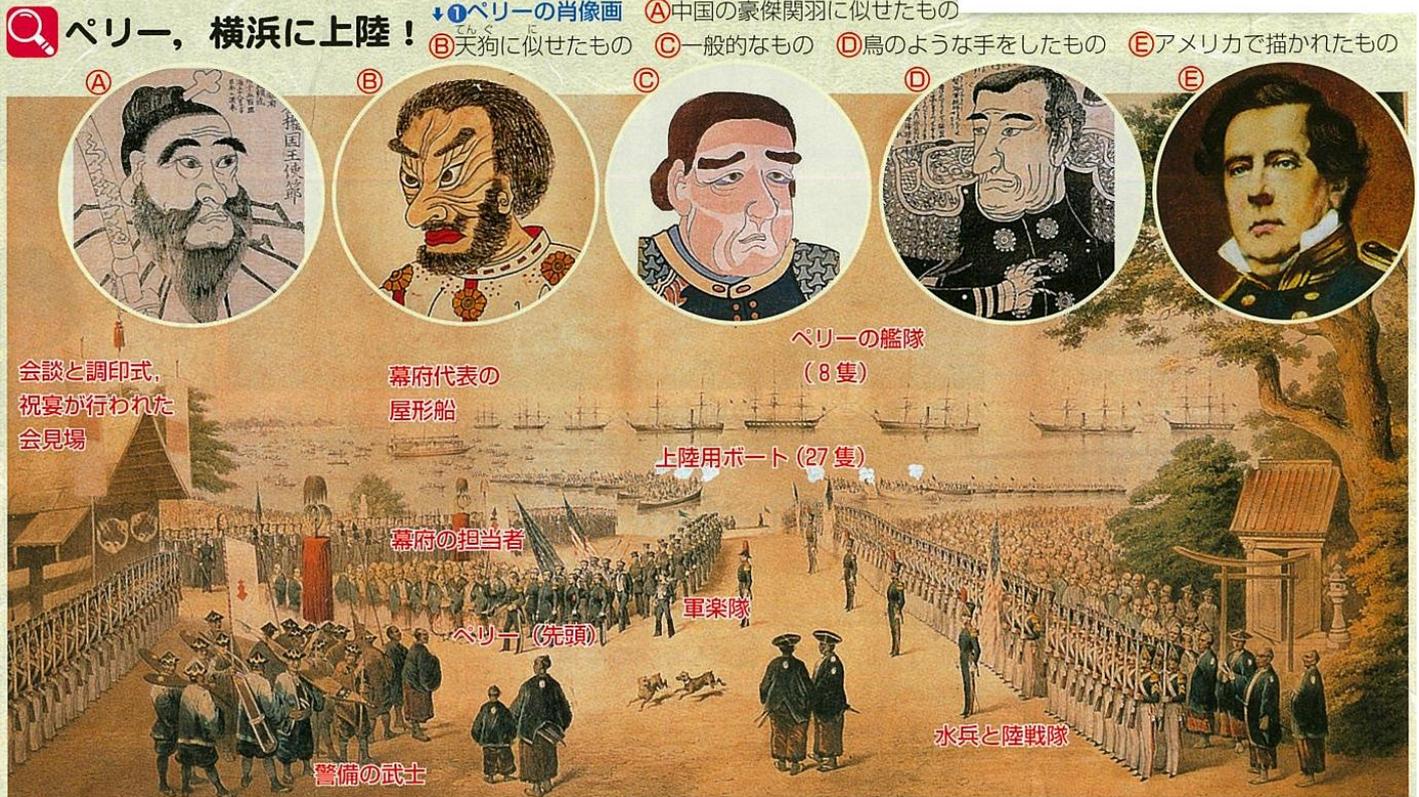
1/28 (金) 利村ハ「三角関係」を考へた



難い
 日本は意見尊重に力を入れた
 代理店嫌 / 加減強い
 植民地支配
 中国 嫌 / 主権を推して
 平等な関係

1840 八里戰爭 代理店 WIN!
 南京茶約 (平等)
 中国 1851年 太平天国 (利外放) vs 清 (欧米諸国)
 中国 1859年 東洋銀行 代理店 vs 日本兵士 + 農・商

【課題】 日本は開国すべきだろうか



ペリーの航路



アメリカ大統領からの国書

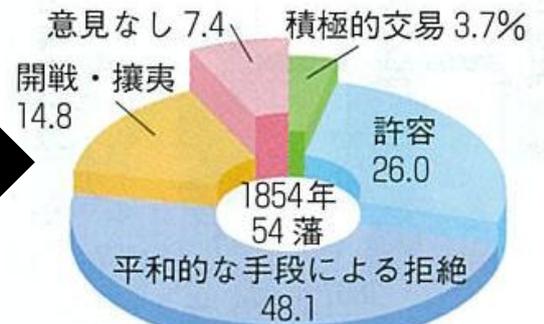
わが国の船で毎年カリフォルニアから中国に向かう船も多くなり、また捕鯨のために日本に接近する船も多い。難破したときは保護してほしい。

私が強力な艦隊とともにペリー提督を派遣する唯一の目的は、友好、通商、石炭と食料の供給、およびわが国の船が難破した時の保護である。(「ペリリ提督日本遠征記」より)

老中 阿部正弘



「今回の黒船来航は、これまでの先例では判断できない。幕府だけで決めれば、もし失敗したとき、天下の信頼を失う。諸大名の意見を集め、国全体としてどう向き合うかを考えねばならない。」



【課題】 日本は開国すべきだろうか

開国派

開国慎重派

以下の3つを意識して考えてみよう。

- ①今までの江戸時代の学習 ②本単元での外国の発展 ③様々な視点、側面、立場

○全体追究後の考え

開国派



島津斉彬（薩摩藩）

「いまのまま鎖国に固執しては、列強の圧力に耐えきれまい。こちらから門戸を開き、積極的に西洋の技術と制度を学び取らねば、日本は自立できなくなる。軍備も産業も、こちらが主導して整えていくことが肝要だ。開国とは単に外国に従うことではない。むしろ、自ら備えを固め、国の力を増すための道だ。機を逸すれば、日本は取り返しのつかぬ後れをとることになる。」



島津久光（薩摩藩）

「世間では攘夷を叫ぶ声も強いが、現状の国力では到底実現できぬ。いたずらに威勢だけの議論をしても国益を損なうだけだ。まずは情勢を見極め、手順を追って開国に対応するほかあるまい。」

「外国と事を構えるには準備が足りぬ。無用な衝突を避け、国内を整えることを優先すべきである。」



徳川慶喜

「攘夷を唱える者は多いが、現実の国際情勢を見れば到底実行できぬことは明らかである。まず国を富ませ、軍制を整え、そのうえで諸国と対等に交渉できる体制をつくるのが急務だ。」

「開国は避けられぬが、漫然と受け入れてはならぬ。相手国の要求を精査し、日本にとって最も利となる形を探るべきだ。」



松平慶永（越前）

「情勢の推移と各国の動向を冷静に見れば、開国し交際を保つのが自然の理である。攘夷を唱えるのは容易だが、実行できぬ策を掲げれば却って国を危うくする。」

「越前藩においても西洋の事情を調べ、軍備を整えねばならぬ。現実に関した政治を行うべきである。」



伊達宗城（宇和島藩）

「攘夷は道義としては響きがよいかもしれぬが、現状では空論にすぎぬ。力に劣る者が戦を挑めば、敗れるのは必定だ。ならば西洋の技術を受け入れ、こちらが備えを固めるほかない。」

「宇和島でも大砲製造や軍艦建造を急がねばならぬ。幕府にも開国の道を示すべきと考える。」



山内容堂（土佐藩）

「近年の外国船の状況を見れば、攘夷を掲げるだけでは国の安全は保てぬ。現実を直視し、国力を整える道を選ばねばならぬ。」

「土佐としても内政を改め、西洋の事情を学ばねばならぬ時代となった。」

開国慎重派



松平容保（会津藩）

「朝廷の御意向が攘夷にある以上、これに逆らうことはできぬ。しかしながら、現状で直ちに攘夷を実行するのは困難であり、むしろ軽挙となる恐れがある。」

「幕府と朝廷が心を合わせ、慎重に策を進めるほかないと考える。」



徳川斉昭（水戸藩）

「アメリカが軍艦を並べて迫ってきたからといって、すぐに和親を結ぶのは、国の恥である。一度でも弱腰を見せれば、外国は必ずさらに要求を重ねてくる。日本はいまこそ武備を整え、朝廷を中心に国中の心を一つにして、戦ってでも国を守る覚悟を示すべきだ。和親は、その後でも遅くはない。」



会沢正志斎（水戸藩士・思想家）

「異国と安易に交われば、物や利益だけでなく、その国の考え方や宗教までもが入り込み、日本人の心そのものが変えられてしまう。国を守るとは、土地を守るだけでなく、日本の道徳と秩序を守ることだ。和親は、国の根本を壊す第一歩になりかねない。」

幕府内・海防掛周辺の慎重派 ※海防掛＝外国船など対外的危機に対応し、海岸の防御を目的として設置された江戸幕府の職名

「確かにアメリカの軍事力は脅威だ。しかし、和親を結べば終わるとは思えない。港を開ければ、次は通商を求められ、さらに治外法権や関税の要求へと進むだろう。いま一歩引けば、いずれ取り返しのつかないところまで押し込まれる恐れがある。」

薩摩藩内の保守派

「異国と交われば、鉄砲や蒸気船だけでなく、キリスト教や異国の習慣が入り込む。それは、日本の身分秩序や主従関係を崩す原因になる。たとえ不便でも、祖先の定めた国の形を守るべきだ。」